

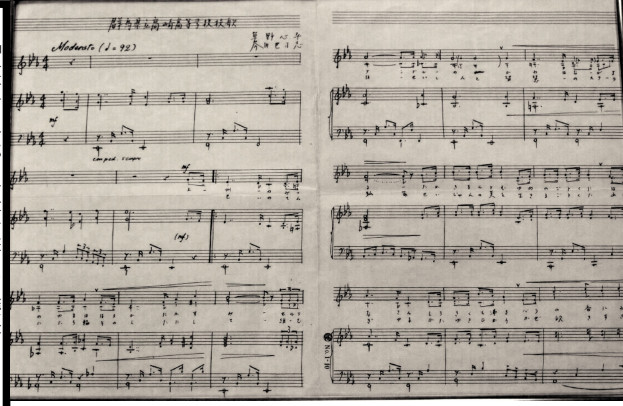
高高の永遠の宝

校歌の原本発見

始業式や終業式などの行事で歌われる「群馬県立高崎高等学校校々歌」（以下、校歌）

の原本が昨年発見された。昭和32年に制定されたこの校歌は、60年以上の歴史を持つ。

「現代には多くの学生の夢が渦巻いている。その夢の中で一緒に歌って校歌を作った。声高らかに歌い上げてもらえとありがたい。それだけで光栄だ」と、芥川氏は、「学校には、社会生活や家庭生活が結びついたその学校独自のスクールソングが必要だ。そこに学校音楽の本質がある。効果も単に儀式的時だけのものではなく、いつまでも若さを引き出し、心を躍動させてくれるようなものが望ましいと思う。その考えを基に高高校の校歌を作曲した。壮厳に、元氣溢れに、またロマンティックに、その時々々の気持ちでテンポを変えながら、この校歌を自由に歌い上げてほしい」



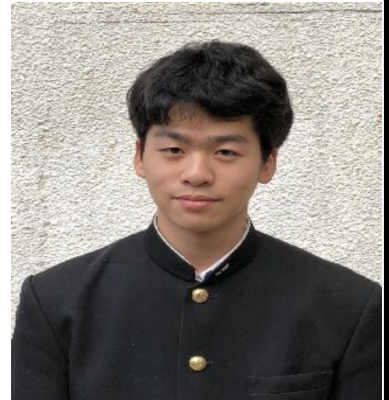
発見された校歌の原本

「吹奏楽部員が音楽準備室を清掃中に偶然発見した。以前からずっと探していたもので、発見された時は、とても嬉しかった」と発見当時の感想を語った。原本には草野氏と芥川氏のコメントが綴られていた。草野氏は、

「完璧」に物事を進めようとする、ストレスで心身に支障をきたす恐れがあるぞうだ。」
usting. Echouffo-Tcheugnu

全国の舞台で活躍

文芸部 大橋君



文芸部部長の大橋君

群馬県高校生文学賞俳句部門で最優秀賞である文学賞、全国高校生文芸コンクールで優良賞を受賞した大橋弘典君（2の7）にインタビューを行なった。
大橋君は、「昨年も俳句や門で最優秀賞である文学賞、全国高校生文芸コンクールで優良賞を受賞した大橋弘典君（2の7）にインタビューを行なった。大橋君は、

短歌で賞を頂き、審査員の方々とも面識があったので、今年も賞を取り期待に添うことができて嬉しい」と話した。大橋君は入学前から俳句を詠んでおり、中学3年生の時から本格的に始めたという。「本格的に始めてからは、日頃からノートに俳句や短歌のためにメモを取るようになってきている。断片的なアイデアをノートに書いた後に、作品全体を作り上げていくため、ノートの果たす役割は大きい。メモを取るようになってからは、

3年ぶりの優勝

科学の甲子園群馬県大会

10月27日と12月14日の2日にかけて、群馬大学荒牧キャンパスで令和元年度科学の甲子園群馬県大会が行なわれた。この大会には飯島拓真君、伊藤敦広君、小山田匠吾君、狩俣直紀君、柴崎悠君、高杉奏丞君、高橋裕之君、三田光希君（2の1）の8名がチームとして出場し、3年ぶりに総合優勝を果たした。そこで、リーダーである高橋君に話を聞いた。

「失敗」と「完璧」

論説

「失敗」は、科学技術の発展に大いに貢献してきた。例えば、イギリスのAlexander Fleming博士は、ブドウ球菌の培養に「失敗」したことから、世界初の抗生物質「ペニシリン」を発見した。一方で、2014年の「STAP細胞」に関する研究発表は、「失敗」が成功に結びつかなかった例である。細胞が存在することを裏付ける論文を作り上げるために、研究データを改ざんしてしまった。これは、日本人の特徴の一つとして言われることがある「失敗」を受け入れない「完璧」主義が

線脱線事故では、運転士がダイヤの遅れを取り戻すために行なった速度超過によって、多くの人が亡くなった。

「博士らの論文によると、ヒトはストレスを感じた場合、脳からコルチゾールというホルモンを分泌する。この物質の血中濃

の感情を考えると、相手組む姿勢。そして、「失敗」という名の特効薬の使い方、人々の意識にかかっているだろう。（茂木）

「大会の主旨は？」
この大会は、天体に落とされたターゲットマーカーに高い精度で着陸させるとい



実際に使った探査機

「メンバー」などのくらい話し合いをしたか？
部活後の18時から20時半頃まで、学校で話し合いをした。数十回実験をし、より精度の高い器具を作れるように努力した。（松本）